

桑新品種候補「きぬゆたか」の育成

福島県蚕業試験場 栽桑部

平成元年～10年度福島県蚕業試験場年報

分類コード 09—01—01030000

部門名 蚕糸一栽桑一育種・選抜

I 新技術の解説

1 要旨

桑園の収益性を高めるためには多収で葉質が良好でしかも機械化の導入に向けた樹形である直立性の品種育成が望まれてきた。また、桑園の改植には従来の苗木植付け法では多くの経費と労働力を要するため、簡易な栄養繁殖法等の技術に対応できる挿し木発根性の優れた品種が望ましい。本県に植栽されている桑品種は昭和30年代以降、改良鼠返が第1位を占めてからほとんど変わっていない。そこで改良鼠返に替わる上記の特性を持った品種の育成を目標とし、当場にて昭和60年剣持を母親、はやてさを父親として交配を行った。その年実生苗を養成して個体選抜、系統選抜を行った結果、優良な成績を納めた系統(系統番号5E-4)を得た。そこで栽培試験並びに蚕の飼育試験を実施するとともに、県内地域(相馬郡小高町、二本松市、南会津郡田島町)における適応性検定試験を行った。その結果、下記の特性が認められ、福島県に適した優良な桑であると判断されたので平成10年「桑福島1号」として品種登録出願、3月13日受理、同年10月30日「きぬゆたか」と名称変更届出を行った。

- (1)発芽は改良鼠返と比較して1日程度早く、第6開葉は2～5日早い。
- (2)最長新梢長は改良鼠返より長い。
- (3)新梢・葉量割合は各蚕期において改良鼠返よりおおむね少ない。
- (4)収量(10a当たり新梢・葉量)は各蚕期において改良鼠返に比較して多く、とくに晩秋蚕期で顕著である。春切より夏切株においてより多収である。
- (5)枝条数は改良鼠返よりおおむね同じかやや多く、最長枝条長は長い。
- (6)再発枝の最長枝条長は改良鼠返よりおおむね同程度であり、平均枝条長は長い。
- (7)倒伏枝数割合は改良鼠返よりおおむね少ない。
- (8)赤渋病、縮葉細菌病、裏うどんこ病には改良鼠返より抵抗性であるが、胴枯病には弱い。クワシントメタマバエの被害は少ない。
- (9)萎縮病、生育不良株の発生は改良鼠返と同じかやや少ない。
- (10)古条挿し木の活着割合は改良鼠返より極めて高く、しんいちのせよりやや高く、みつしげりよりやや低いが、発根性は良好である。
- (11)春蚕期および晩秋蚕期に蚕の飼育試験を行った結果、改良鼠返と同等の成績を得た。

2 期待される効果

桑園の土地生産性および労働生産性の向上が図られまた桑園造成が安価でかつ省力的に行うことができる。

3 適用範囲

積雪のない寒冷地および一部温暖地

4 普及上の留意点

胴枯病に罹病性のため積雪地での植栽は避ける。

II その他

- 1 主な参考文献・資料:(1)東北農業研究(1992)45,315-316.
(2)東北蚕糸研究報告(1993)18,46.
(3)東北蚕糸研究報告(1995)20,47.
(4)東北蚕糸研究報告(1996)21,31.